

■高校ではどのような活動をしていましたか？

高校2年生の秋から1年間、スコットランドに留学していました。留学当初は、現地の英語についていけなかったのですが、学校や滞在先の寮などで積極的に英語でコミュニケーションを取ることで、飛躍的に英語が上達しました。週末にはエディンバラ城などの歴史的建造物を観光したり、ボランティア活動に参加するなど様々な経験を得ることができました。

また、高校1年時に環境を題材にした小論文コンテストで、日常生活における環境問題を取り上げ全国大会で優秀賞をいただいたり、幼少時より続けている書道で段位を取得するなど、どんなことにもあきらめず粘り強く挑戦する高校生活でした。

■早稲田大学社会科学部を志望し、「全国自己推薦入学試験」で受験しようと思ったのはなぜですか？

高校1年時から留学を決めていたのですが、国際化に積極的に取り組んでいる早稲田大学に興味を持つようになりました。そしてオープンキャンパスに参加した際に、社会科学部の模擬講義を受けたことが深く印象に残り、社会科学部で学びたいと考え志望しました。

また、高校3年間は意欲的に様々な課外活動を行っていました。自ら夢中になって取り組んできた活動が評価されることに魅力を感じ、自分を信じて挑戦したいと考え自己推薦入学試験を受験しました。

■実際に社会科学部に入学してみて、どう感じていますか？

入学するまでは、授業は先生の講義を聞くといった受け身の印象があったのですが、実際に授業に出席してみると先生と学生、または学生間で議論を深めたり、対話形式の授業であったりと、より実践的で知識が深まることを実感しています。

また、人文科学分野についてより深く学びたいと考えていたのですが、入学後に受講した法学分野にも興味を持つようになり、学びに対して興味の幅が広がりました。

2年生からはゼミが始まります。社会科学部の学際的なカリキュラムを活かし、自らの専門分野を複合的な視点で学んでいきたいと考えています。

■現在、力を入れて取り組んでいることは何ですか？

早稲田大学公認サークルである早稲田大学フラッシュモ部に在籍しており、そこで渉外担当を務めています。フラッシュモブとは、一般人を装っていきなり踊りだしてサプライズを起こすことであり、“驚きと感動の仕掛人”をテーマに掲げ活動しています。

たくさんの人に驚きと感動をもたらすためには、外部との連携が必要不可欠です。渉外担当はサークルの窓口として外部とのやりとりを任されています。

また、社会科学部の国際交流を促進するイベント企画チーム(SAGAS)に所属していたり、国際コミュニケーションセンター(ICC)でニュージーランドの留学生と互いの言語や文化を理解しあうプログラムにも参加するなど、留学生との交流にも積極的に取り組んでいます。

■将来の目標は？

たくさんの人たちに驚きと感動を届けたいという想いから、映像関係の仕事に興味を持っています。海外にも視野を広げながら、自らの可能性に挑戦していきたいと思っています。さらに、これまで育ててくれた地元にも貢献していきたいと考えています。

オリンピックも控えており、さらなる語学力向上を目指し、これまで培ってきた経験を活かしていきたいながら、国際交流や地域活性化に繋げていきたいです。

■これからの受験生へ向けて、一言お願いします。

高校生活では留学することにより、世界へと視野が広まりました。このことが、私にとってさらに学んでいきたいという意欲を掻き立ててくれました。大学は学びたいことを学べる環境があり、その中でも社会科学部は自らの学びたいことを深く学ぶことも、様々な分野を学際的に幅広く学ぶこともできます。

まずは自分の生活圏から飛び出してみてください、きっと新しい出逢いや経験を通して、学びたいことが見つかると思います。そして、高校生活において必死で何かに取り組んできた人たちに、自信を持って自己推薦入学試験にチャレンジしてもらいたいと思っています。

社会科学部2年
ウエダ マリコ
植田 真里子さん
不二聖心女子学院高等学校 卒業

Interview